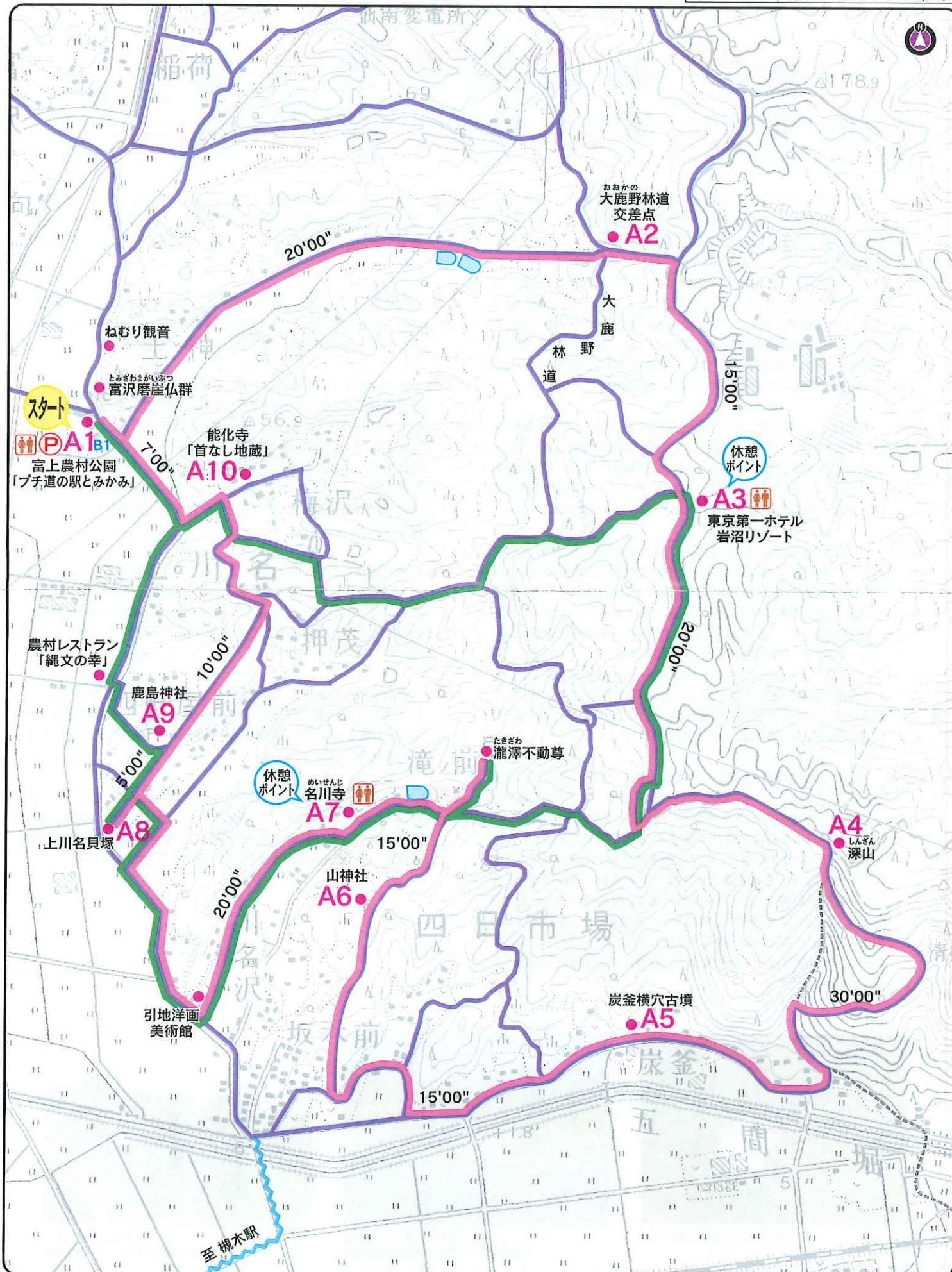




しんざん 深山コース

凡 例	
	基本コース
	お楽しみコース
	道路
	駅から各コースまでのアクセス道(歩道)



しんざん 深山コース

しんざん:193.4m



- A1** 富上農村公園には、昭和51年に閉校になった槻木小学校富上分校（1年から4年生）の校舎が建っている。農村公園工事で校庭が拡張されて広く見えるが、狭い校庭のと真ん中にシンボルの松の巨木があった。富上分校は富沢・上川名両地区の教育の場として102年間親しまれてきたが、今は両区の生涯学習館として活用されている。隣の建物は子どもが少なくなったということで廃館になった富上児童館を活用して、心身障害児通園施設「むつみ学園」となっている。公園を上川名方面に向かいすぐに左に折れる。富沢土神地区である。休耕田が目立つ中、大鹿野林道を目指す。二つのため池を過ぎ畑の中を通り杉林になると大鹿野林道に出る。
- A2** 左に行くと富沢坂本、右に行くと四日市場坂本に通じる林道である。林道を横切り杉林（町有林）の中を稜線まで登る。岩沼リゾートの施設が正面に見える。右に道を取り稜線沿いを歩く。稜線は岩沼市との境で昔からの火防線でもある。テニスコートなどの施設が見えてくる。雑木林を岩沼リゾートに下る。トイレ休憩はここで。
- A3** 稜線まで登り返し深山を目指す。以前は蔵王の眺望が抜群であったが木が伸び今は見えない。途中電力線のため刈払いされた箇所から入間田地区や葉坂地区が望める。快適なコースだ。電力の鉄塔を過ぎT字路を左に進む。右に下ると山神社に通じる。緩やかな道を登っていくと、ほどなく深山である。深山の読み方については、「みやま」との説もあるが、最近では「しんざん」として親しまれているので「しんざん」としたい。石のテーブルとイスがある。以前は岩沼市街地や仙台空港が望めたが樹木が伸び眺望はない。三角点190.9mは岩沼市側に約1,500m行った所にあり、山名は千貫山（古くは深山＝「みやま」と呼ばれていた）。
- A4** 杉林な中の急な道を下る。道がわかりにくいがテープの目印を頼りに20m程下るとトラバースしている道に出る。右に下る。最初だけ左側が切れ落ちている急峻な沢（鬼石沢）を見ながら慎重に下る。雑木林の中から阿武隈川や槻木市街地を垣間見ることができる。快適なジグザクの道だ。杉林を過ぎ雑木林に出るとまもなく治山工事跡に出る。左に道を取り竹林の中を進むと四日市場「山神社」の社務所に着く。四日市場炭釜である。舗装道に出たら右に道をとる。左に行くと岩沼境で、直進すると五間堀、JR線路を横切り国道4号バイパスに出る。輪菊やトルコギキョウを栽培しているビニールハウスを見ながら歩道を歩くと右側に「炭釜横穴古墳群」が見えてくる。
- A5** 集会所を過ぎると右側の小高い丘に白い鳥居が見える。鳥居をくぐり、左側に羽山や蔵王を見ながら緩やかな坂を登ると巨木杉と鳥居がある。山神社の入り口である。鳥居をくぐりほどなく山神社に着く。
- A6** 神社裏を下り左側に墓が見え大きなカヤの木に会うと川名沢地区である。右の道を行くと瀧澤不動尊に着く。来た道を戻り左に道をとる。ため池を過ぎ墓が見えると「名川寺」だ。
- A7** 道を直進するとT道路にでる。右に道をとる。右側に見える洒落た建物は画家である故引地東治氏の個人美術館。左側には水田が広がり羽山、青麻山、蔵王が遠望できる。板金工場になると上川名地区である。丘に火の見櫓が見えてくる。上川名貝塚だ。橋を渡り右の集落に入り掲示板が見えたら左に折れる。民家の後ろの道を左側に向かう。右側に行けば鹿島神社である。小高い丘にある貝塚からは水田が広がり槻木市街地が見える。地元の手づくりで公園化が進められている。
- A8** 来た道をもどり階段を登る。ほどなく赤い鳥居に着く。石段を登ると鹿島神社。50戸足らずの集落の神社と思えない立派な神社で社殿と鐘楼があり、巨木のカシの木がある。裏側は鹿島貝塚になっていて、昭和40年頃まで地元農家は貝をニワトリの餌として活用していた。
- A9** 参道を東に向かう。ワラビ畑や竹林を見ながらの稜線歩きで、左側にスタートした農村公園や愛宕山が見え、少し下ると舗装道に出る。左に道を取り移転した農家屋敷跡を過ぎ、急な下りになると正面に能化寺が見えてくる。
- A10** 能化寺をあとにして右に道をとると三叉路に着く。左に行くと農村レストラン「縄文の幸」（上川名集会所）だが道路脇の水路は6月下旬にはホテルが乱舞する。町内随一で毎年ホテル鑑賞会も開催される。右に道を取りほどなく出発した富上農村公園に着く。



深山山頂から急峻な道を下る





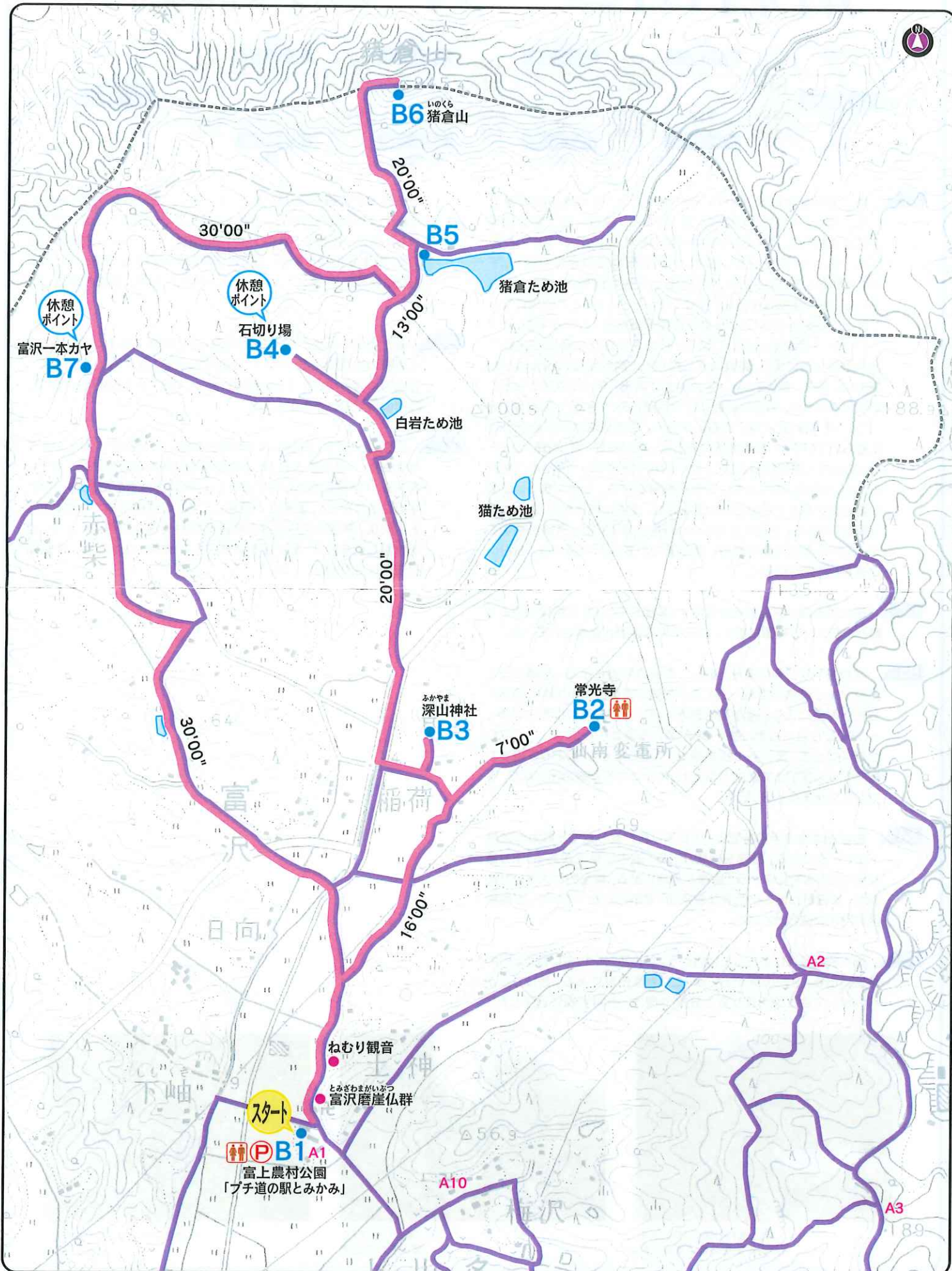
四日市場からの蔵王の眺めは四季を通して抜群だ（宮城蔵王36景）



秋の例祭に行われる上川名地区の昔ながらの神輿渡御

B 猪倉山コース

凡 例	
	基本コース
	道路



いのくらのやま 猪倉山コース

いのくらのやま:245.4m



B1 富上農村公園には、昭和51年に閉校になった槻木小学校富上分校（1年から4年生）の校舎が建っている。農村公園工事で校庭が拡張されて広く見えるが、狭い校庭のど真ん中にシンボルの松の巨木があった。富上分校は富沢・上川名両地区の教育の場として102年間親しまれてきたが、今は両区の生涯学習館として活用されている。隣の建物は子どもが少なくなったということで廃館になった富上児童館を活用して、心身障害児通園施設「むつみ学園」となっている。Y字路を山沿いに進むと杉の大木が立つ県指定史跡の富沢磨崖仏群に着く。鎌倉時代に彫られた阿弥陀如来裸大仏がお堂の中にある。像高2.4m。像の側面に嘉元4年（1306年）などの刻字がみられる。お堂の周囲には六地藏（ろくぢそう）、虚空蔵菩薩（こくうそうぼさつ）などの石仏がある。磨崖仏群は凝灰岩質の岩に彫られているが、富沢地区の岩石は、家の基礎・塀・倉庫・かまどなどの土木・建築材料として、古くは江戸時代から利用され「富沢石」として有名。あちこちに石の採掘跡を見ることができる。正面に愛宕山を見ながら山沿いの道を進む。途中で風化が著しい「ねむり観音」がある。正面に見える赤い鳥居は深山神社。道路を横切るが、右側の道は大鹿野林道、東北電力の変電所に通じる。堀沿いに進むと常光寺に着く。

一番奥の家の脇を通り杉林に入る。徐々に登りになり赤松が目立ち松くい虫の伐採跡がところどころにある。岩沼市との境を登り詰めると視界が広がる。松くい虫の伐採跡だが、ここからの眺めが最高で、槻木耕土や市街地、遠くには角田や丸森の山並みが見える。山頂は稜線を東側に行ったところにあるが、杉木に囲まれ眺望はない。

B6 来た道をため池まで下り、池の脇を通り沢まで戻る。沢沿いに登り架線の管理道を登っていくと鉄塔に出る。道が緩やかになると右後方に猪倉山が大きい。農道に出、しばらく歩くと町指定天然記念物の富沢の一本カヤがある。

B7 交差点に出る。右側に行くと雨乞林道、10分程度で雨乞のイチヨウに着く。道を直進し、ため池脇を通り静かな農村のたたずまいを下る。T字路に出たら右に道を取り、再びため池を見ながら下る。平坦な道になると、真新しい道路にでる。町道槻木線で右側に行くと入間田、葉坂を通り成田の県道亘理村田線の交差点に出る。道を横断し橋を渡り、再び道を横断すると朝歩いた道と合い富上農村公園は目の前だ。

B2 来た道を戻り深山神社を目指す。鳥居をくぐり急な階段を登ると静かな佇まいの社殿に着く。立花小川流神楽が伝承されている。

B3 階段を下り右側に道をとると二車線の町道に出る。左側に行き直進すると槻木市街地へ通じる。右側に道を取り田中林道起点から細い町道に入る。通称石山集落に着いたら右側の山沿いに歩くと、すぐに白岩ため池に着く。車が通れる道なりに進むと、そそり立つ岩場に出る。富沢石の採掘場だ。大正6年から昭和10年頃まで槻木駅から富沢まで軌道が敷かれトロッコで石が積み出された。今でも注文があると切り出す。

B4 白岩ため池の手前を登る。沢に下り再び登り返すと電力の架線下のピークに出る。稜線を横切り下る。途中に梯子がある。下り降り沢に出たら右に向かうと猪倉ため池に出る。神秘的な大きいため池だ。柴田町にあるが所有は岩沼市・名取市になっていて、志賀地区の用水に使われている。

B5 畑を横切り道に出たら左に向かう。ため池沿いに右に行くと田中林道に出る。2戸の家があるが、ここも柴田町である。昔はここから今歩いてきた道を通り富上分校や槻木・小中学校に通学した。



富上農村公園すぐ傍にある県指定史跡の富沢磨崖仏群



岩壁がそびえる富沢石の採掘場

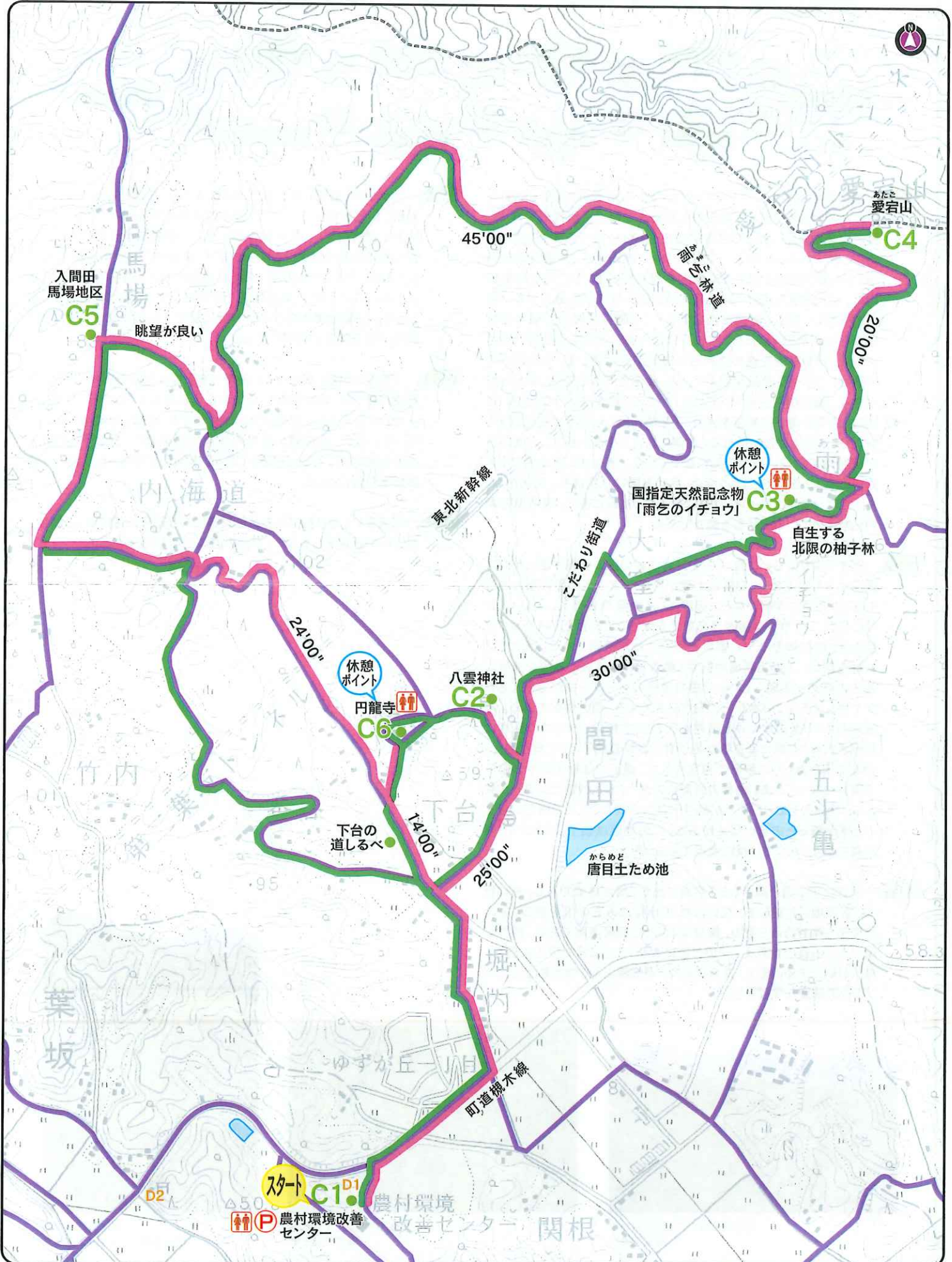


猪倉ため池から民家の脇を通り山頂を目指す



愛宕山コース

凡 例	
	基本コース
	お楽しみコース
	道路





あ た ご さ ん 愛宕山コース

あ た ご さ ん : 291.4m



C1 農村環境改善センターのグラウンドから北方面を望むと裾野を広げた愛宕山が大きい。柴田町の最高峰で頂上に無線塔が建つ。愛宕山の中腹にこれから目指す雨乞(あまご)のイチョウの姿を見ることができる。グラウンドの左を歩く。成田地区(県道亘理村田線)から富沢地区に通じる町道槻木線を横切る。左に行けば葉坂地区、成田地区を通り、県道亘理村田線を横切り表蔵王ゴルフ場の脇を抜け、船迫、船岡市街に出る。この道路の開通で槻木農山村部から船岡が近くなった。右に行けば入間田地区を通り富沢地区に抜け、田中林道を進めば岩沼市志賀地区に通じる。仙台市への近道として年々交通量が増えている。歩道を下ると左側に新しい家が並ぶ。優良田園住宅「ゆずが丘」である。橋を左に折れ川沿いに進む。入間田堀ノ内集落を通り、T字路に出たら山手の左に道をとる。100m程歩き右に折れる。左側に見える小高い丘は、入間田小学校跡地で現在は農村公園になっている。道なりに進み橋のT字路に出る。川沿いを上流に歩く。赤い鳥居は八雲神社。鳥居をくぐり大きな杉並木の中の長い石段を登ると社殿に着く。榊原流神楽が伝承されている由緒ある神社である。

C2 道まで戻り川沿いに登って行く。ホタルの里の看板があるが今は飛ぶホタルは少ない。白壁の土蔵が見えてくる。入間田祇園入地区である。正月や年祝いなどに披露される大黒舞が有名。いよいよ登りになる。ジグザクな舗装道の急坂を喘ぎながら雨乞のイチョウを目指す。農村総合モデル事業で整備された道路である。晴れていれば左側に、入間田馬場地区や、葉坂地区の点在する家を前景に蔵王の眺めが素晴らしい。七曲の最後のカーブを曲がると大きなケヤキとイチョウの木が目飛び込んでくる。雨乞地区である。柴田町名木40選のケヤキと国指定天然記念物のイチョウの巨木に圧倒される。右側には見事な柚子林。北限の柚子として皮が厚く、昔は横浜市あたりの料亭で重宝された。最近では柚子酒やお菓子の原料になっている。柚林の合間にスタートした改善センターが見える。地名のとおり日照りが続き干ばつの時に、ここで雨乞いをすると雨が降るとの言い伝えがある。この地区は柚子、タケノコ、栗が有名だが、かつては桐の産地でもあった。

C3 民家の前を通り過ぎるとT字路に出る。雨乞林道である。右に行くと富沢地区に通じる。左に折れ20m程進み右の坂を登る。急勾配の道を喘ぎながら登る。展望はないが、舗装道路である。視界が開けるころ頂上が見え、一段と急になり、3分ほどで頂上に着く。鳥居と祠がある。蔵王、丸森の山々、阿武隈山地、槻木耕土と大パノラマの眺望がすばらしい。

C4 登ってきた道を一気に雨乞林道まで下り、林道を右側に折れる。真新しい落石防止ネットや左側に槻木市街地を望みながらカーブが多い林道を歩く。杉の伐採跡に出る。船岡城址公園にオープンした観光物産交流館「さくらの里」の建築のために町有林を伐採した跡だ。子どもたちの手で新たに植栽された。道を進むと三叉路に出る。左に行くと内海道地区で改善センター方面に出る。右に道をとると丘陵地帯の畑が広がり夏は菊やそば畑になる。槻木と阿武隈山地の眺望が抜群である。

C5 T字路に出る。右に行くと馬場林道となり村田のスポーツランド菅生に通じる。左に向かい羽山が正面に見えてくるころ、右側にリンゴの木が目立つ。以前はリンゴ団地であったが、いまは一部しか残っていない。左の道に折れ内海道地区を通り一気に下る。集会所の手前で左に入ると丸龍寺である。県指定文化財「十二神将」「薬師如来立像」がある。

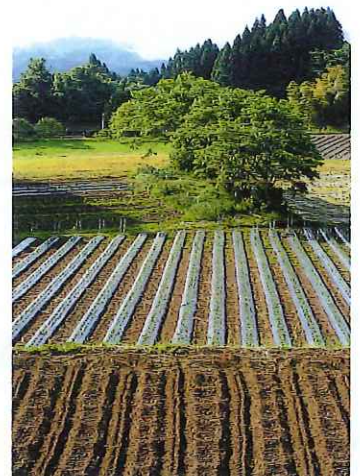
C6 町道までもどり左折すると三叉道になり朝来た道に出る。菅生、村田への近道をしるした「下台の道しるべ」がある。



雨乞地区までの上り道路から蔵王を望む





北限や自生として有名な雨乞の柚子林

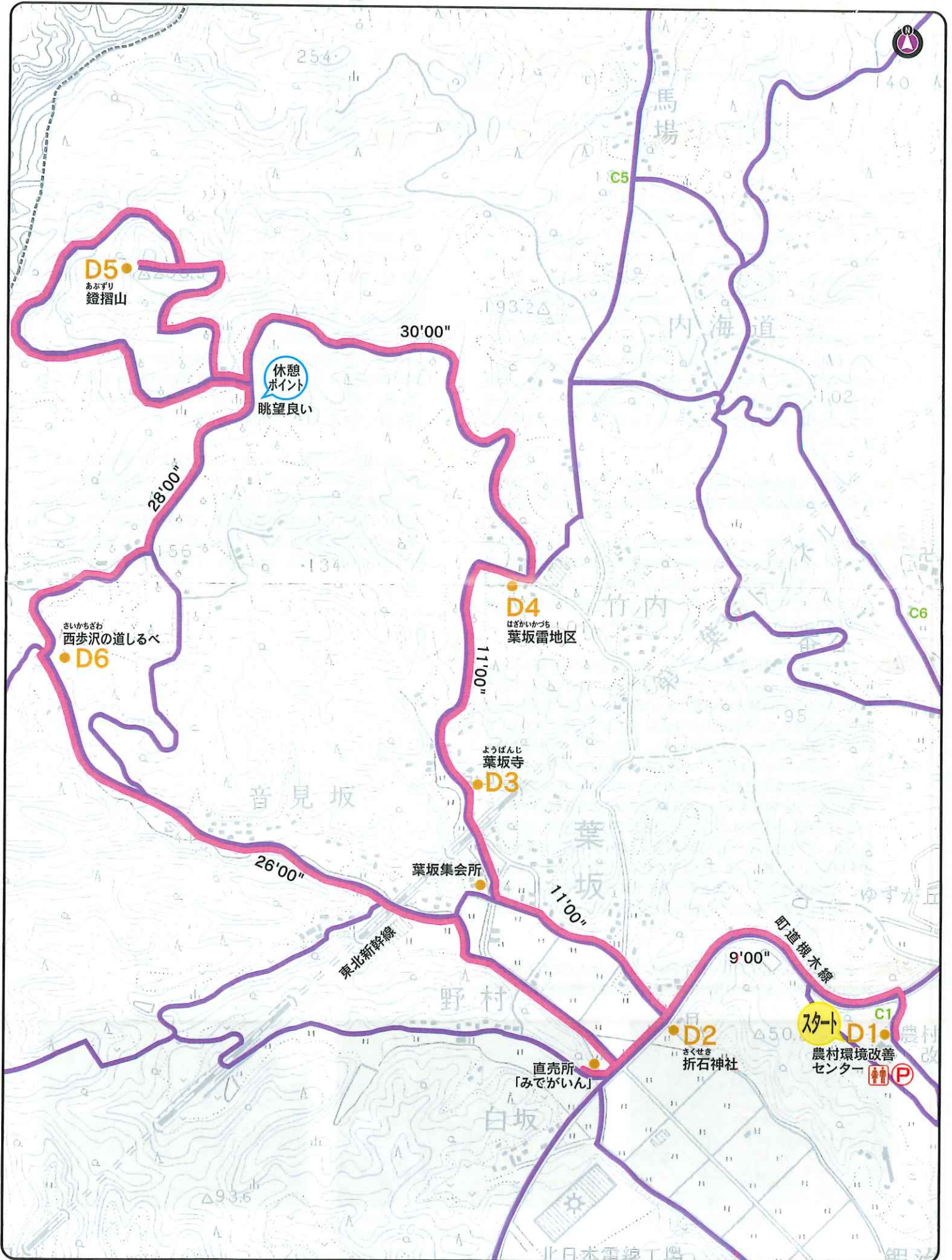


入間田前原地区は広大な畑が広がるミニ富良野

あぶずりやま

D 鐙摺山コース

凡 例	
	基本コース
	道路



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号平22東複、第67号）

鐙摺山コース

あぶずりやま:256.3m



D1 農村環境改善センターのグラウンドから北方面を望むと裾野を広げた愛宕山が大きい。柴田町の最高峰(291.4m)で頂上に無線塔が建つ。愛宕山の中腹に雨乞のイチョウの姿を見ることができる。グラウンドの左を歩く。成田地区(県道亘理村田線)から富沢地区に通じる町道槻木線を横切る。歩道付きの道路で、左に行けば葉坂地区、成田地区を通り、県道亘理村田線を横切り表蔵王ゴルフ場の脇を抜け、船迫、船岡市街に出る。この道路の開通で槻木農村部から船岡が近くなった。右に行けば入間田地区を通り富沢地区に抜け、田中林道を進めば岩沼市志賀地区に通じる。仙台市への近道として年々交通量が増えている。左に道を取り、ため池を見ながら葉坂地区に下る。左側に赤い鳥居が見えてくる。杉木立に囲まれた折石(さくせき)神社である。短い石段を登ると拝殿がある。

D2 神社を下り道を横切り沢沿いに歩くと葉坂集会所に着く。交差点を左に折れ集会所脇を通り新幹線の高架橋をくぐると葉坂寺だ。

D3 緩やかな道を登って行くと道の両側が荒れ放題だが、10数年前まではリンゴ栽培されていた所だ。家が見えてくると舗装道になる。リンゴの旧集荷所跡がある。以前はこの周辺とこれから進む道路周辺は組合経営の一大リンゴ団地であった。木は掘り起こされ、個人経営の一部のリンゴが残っているだけである。

D4 右に行けば入間田馬場地区や折石神社に通じるT字路に出る。左に道をとる。しばらく緩やかな舗装道を歩く。右に若い杉木立が見えてくる。以前は観光果樹園であったがリンゴの木は掘り起こされ杉が植栽された。右に折れ杉木立に入り、すぐに右に折れる。直進しても鐙摺山に通じるが帰路に歩く。しばらく若い杉木立の中を歩く。一段高くなった杉林に入り急勾配を避け右にトラバースしながら進み、少しだけ直登すると石碑があるピークに着く。残念ながら木が生い茂り眺望はない。地元葉坂ではここを鐙摺山と呼んでいるらしいが、三角点はここから一度右に下り登り返した村田町境にある。石碑を後にして三角点を目指す。踏み跡を頼りに雑木林の中を稜線沿いに進み、緩やかな道を登ると三角点に着く。眺望はない。吾妻街道であった道を馬で通る際に鞍から吊り下げた鐙が石にぶつかり摺れることから鐙摺山と言われるようになったと伝えられている。

D5 来た道を50m程もどり左側の杉林に入る。手入れされた静かな林の中を下ると、しっかりした作業道に出る。左に道を取り朽ち果て

た作業小屋を見ながら道なりに歩く。周囲の杉林の雰囲気は素晴らしい。右側は村田町である。明るくなり荒れた畑の笹藪を見ながら歩き、若い杉木立が見えてくると、鐙摺山に向かった場所に戻る。来た道を舗装道まで戻る。舗装道を右に折れる。すぐに眺望が開ける。槻木市街地や阿武隈川、七畝山、太平洋の眺めが素晴らしい。この周辺もリンゴ団地であった。一部残っているリンゴの木を見ながら下るとY字路に出る。左に行くとリンゴの木(20数年前まではモモ団地)を見ながら西歩沢(さいかちざわ)に通じる。右に道を取り牧歌的な雰囲気の中に立つ家を眺めながら歩く。左側の細い道に入り下ると三叉路になり「西歩沢の道しるべ」が建っている。碑には「向かって右やしき、下いわぬま、左むらた道」とある。右に行くと天王、石合、村田境に通じる。

D6 左に道を取り下る。ビニールハウスが見えると舗装道に出る。音見坂(おとみさか)女蔵(みょうぐら)と珍しい字名の地区を通り、新幹線の高架橋をくぐると集会所はもうすぐだ。集会所手前の道を川沿いに歩くと町道槻木線に出る。左に行くと改善センターであるが、右に折れ葉坂の農家の皆さんがやっている農産直売所「みでがいん」に立ち寄る。野菜を買って農村環境改善センターに戻る。



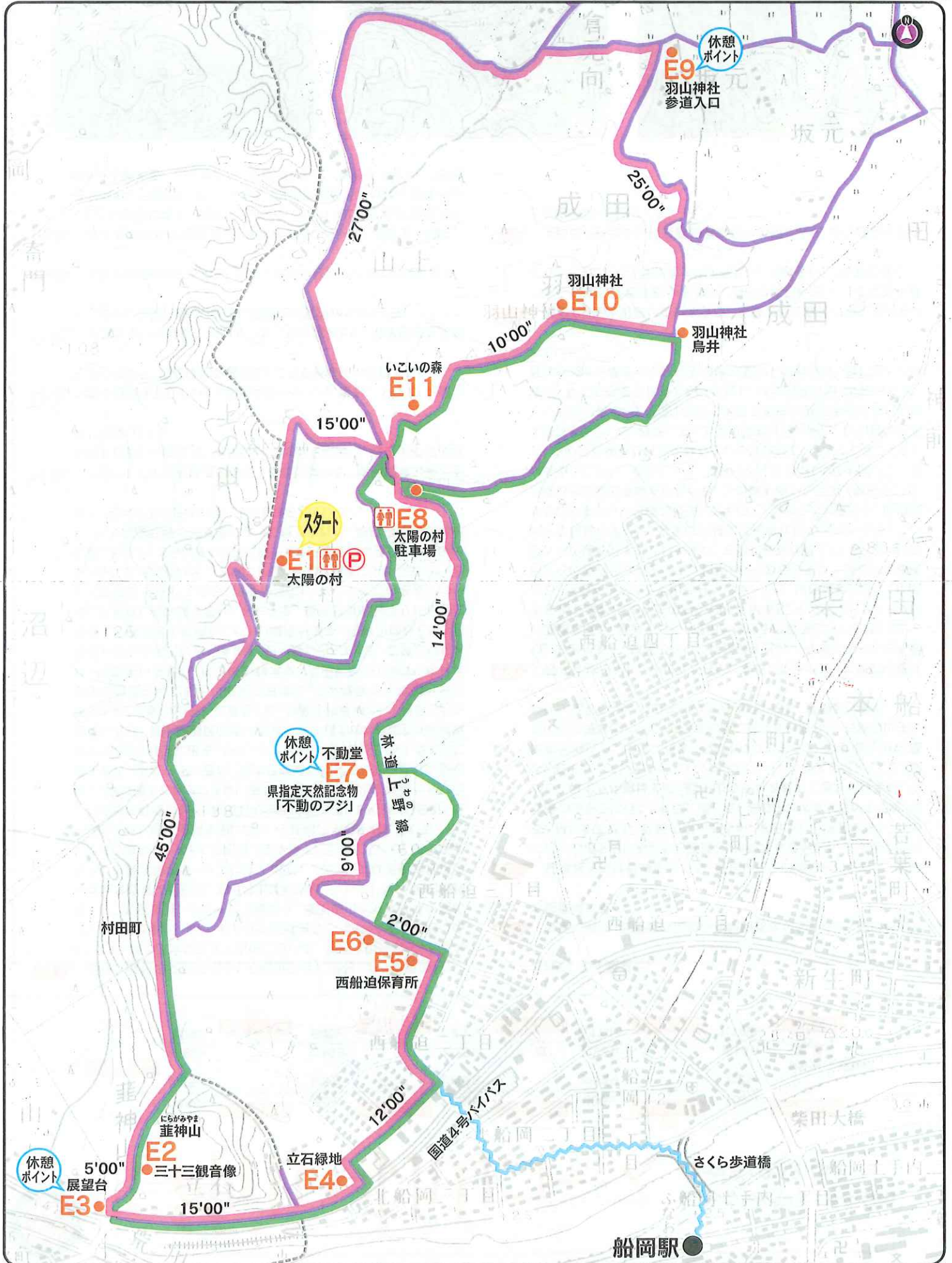
農免道路脇にある折石神社

鐙摺山頂を下り
手入れがゆきといた杉林を歩く農免道路脇にある
産地直売所「みでがいん」



蕪神山・羽山コース

凡 例	
	基本コース
	お楽しみコース
	道路
	駅から各コースまでのアクセス道(歩道)



にらがみやま はやま 葦神山・羽山コース

にらがみやま:94.0m

はやま:223.0m



E1 都市と農村の交流の場として昭和51年に開村した「太陽の村」。4ヘクタールの広大な芝生で自由に遊べる。最近大型遊具「ふわふわドーム」が出来た。また、BBQや芋煮会など、四季を通じて憩いの場として家族連れ、グループで賑わう。蔵王の山々や太平洋が望める雄大な眺望は最高だ。初日の出は町内随一。レストラン、宿泊施設もあるが贅沢味噌ラーメンは大人気だ。このコースは西船迫地区の人たちの散歩コースとして定着し年々歩く人が増えている。駐車場から舗装された細い道路を南に向かう。建物の手前を右に折れる。すぐに村田町の町境になり、村田町の沼部地区に通じる町道(村田町)を歩く。車は通ることができない道だ。5分程で町道と別れ緩やかな山道を登る。歩きやすい道だ。電力の鉄塔を過ぎると整備された階段の下りになり町道に出る。ショートカットした形になる。少し歩くと二股道になり、鳥獣保護区の赤い看板と東北電力のA線B線の表示看板がある。左側の山沿いに道をとる。林業の作業道として整備された平坦な道路で柴田町と村田町の町境だ。5分程度で作業道と分かれ、稜線沿いを歩く。村田側が雑木林、柴田町側が杉林で、杉林は間伐が行われ手入れが行き届き、日が差し込んでくる。森林が伐採され蔵王が見渡せる見晴らしがよい場所がある。稜線が終わる頃、葦神山を目指し踏み跡を頼りに右に下る。標高差30m程下り15m程上ると葦神山(94m)である。黄葦が自生していたのでこの名前がついたとされる。展望はない。さらに下ると電力の鉄塔に出る。右に行くと町道に出るが、さらに進むと石仏群の三十三観音像は弘化3年(1846年)に大河原町等の寄進者によって建立された。藤原実方の歌碑が建ち、芭蕉が歌を詠んだ地としても知られている。

E2 お参りしてから表参道の坂を下ると展望台だ。船岡城址公園と千桜橋を正面に、白石川と荒川の合流地点を前景に、一目千本桜の眺めが素晴らしい。

E3 急な階段を下りていくと国道4号バイパスに出る。バイパスを仙台方面に向かう。立石緑地を過ぎたところで団地側へ左折する。

E4 歩道を歩いて幹線にぶつかったら左に道を取り、県営住宅を見ながら緩やかな坂を登る。左側に西船迫保育所が見えてくる。

E5 西船迫保育所を左折すると林道上野線が見え、1分程で起点に着く。

E6 林道上野線を10分程登ると年中枯れることがない泉の音が聞こえてくる不動堂に着く。階段を上るとカヤの木に絡まる県指定天然記念物の「不動堂のフジ」がある。以前は開花時には遠く船岡市街地からも眺めることができた。正面のお堂は、身替り不動として崇敬

されている不動堂だ。

E7 林道に戻り、西船迫の街並みを垣間見ながら歩くと太陽の村の下の駐車場に着く。

E8 駐車場を抜け町道を上がる。町民いこいの森の入口を右に、太陽の村への道を左にみながら直進し、やや急な道を下る。ため池が見えると視界があげる。数軒の家があるが、成田山の上部地区である。ため池脇の道を左に行くと村田に通じる。畑の中に大きな石があるが、今から2,600万年ほど前、蔵王山の火山活動でできた花崗岩だ。大きく右にカーブし下がついていくと大型ビニールハウスが見えてくる。成田倉元地区だ。成田は花卉(菊やトルコギキョウ)の産地だ。Y字路を山側に道を取り大型ハウスを右側にしながら進むと、右側の山手に鳥居が見えてくる。羽山神社の参道入口である。鳥居を目指す。

E9 最初は急だがしだいなだらかになる。気分がよい竹林の中を進むとお宮がある。林業のための作業道を進み、Y字路になったら右側に進路を取る。直進すると小成田へ抜ける作業道なので注意したい。作業道を進むと90年生の杉の切り株があり、その先にトラロープがある。階段を上ると羽山神社へのルートだ。道を進むと程なく小成田からの表参道と合流する。小成田からの表参道は一番奥になる廃屋からの道が荒れて迷いやすい。右側にお宮が見えてくると、入口の大きな鳥居はすぐだ。鳥居の両脇には見事な杉の大木がある。ここからは歩きづらい急峻な坂道になるので、気合を入れ直そう。途中振り返ると山道の急峻さがわかる。しめ縄を巻いた巨岩(胎内くぐり)があるところで一休みしよう。岩は子どもがくぐれる穴が開いているが、この穴を通ると病気になると言われていた。ここまでくると山頂はもう少した。鉄塔に着くと羽山神社は目の前だ。安山岩に鎮座したお宮があるが、平成15年に火災で焼失し翌年再建された。漁業、子育ての神様で作神ともいわれている。例祭は旧10月8日だが、昔は各地から集まった参拝者が槻木駅から切れ目なく続いたといわれている。

E10 階段を下ると町民いこいの森だ。整備された森林の中を気持ちよく歩く。幾重にも散策路があるので自由に楽しみたい。小さな池を過ぎると下りになり見事な雑木林が見えると鳥居をくぐり町道に着く。

E11 太陽の村へ上がる舗装道路脇の杉林の道に入り、急な斜面を登ると太陽の家が見えてくる。



葦神山頂直下にある三十三観音





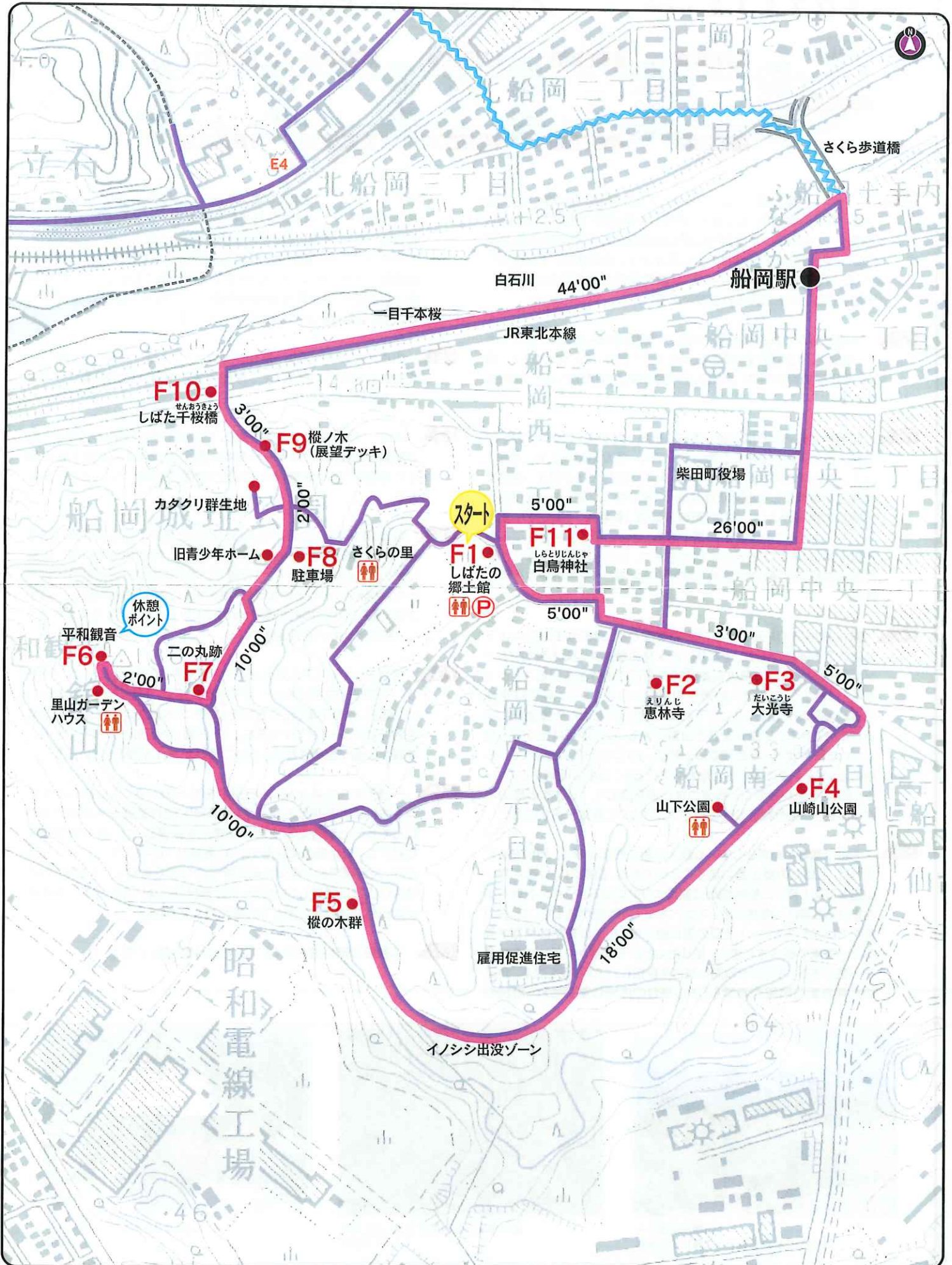
羽山神社への表参道の登りにある胎内くぐりの岩



散策に最適な町民いこいの森

たてやま
F 館山コース

凡	例
	基本コース
	道路
	駅から各コースまでのアクセス道(歩道)



館山コース

たてやま:136.0m



F1 「しばたの郷土館」には、ふるさと文化伝承館、思源閣、産業展示館、国宝茶室如庵（じょあん）の写しの茶室如心庵の4つの建物で構成されている。平成22年5月に伝承館内に柴田町図書館が開館した。船岡城址公園を目の前に見ながら、道路を左にとり住宅を歩くと「恵林寺（えりんじ）」に着く。原田家菩提寺東陽寺の末寺で、甲斐を供養したと伝えられる碑がある。

F2 水路に蓋がされた路を東へ進むと、町指定の天然記念物「イチヨウ」や史跡「五百羅漢」の石仏がある「大光寺（だいこうじ）」に着く。柴田家の菩提寺で、柴田氏五代柴田外記朝意からの一族の墓がある。

F3 船岡駅から通じる広い通りを右に折れ、ガソリンスタンドの手前の狭い道に入ると山崎山公園入口に着く。急な階段を上る。東屋とウラジロカンの大木が立っている。東には仙台大学が見え、西には北蔵王を背景にして船岡城址公園の「樅の木」が見える。雁戸山や熊野岳の眺望がよい。北には町の最高峰「愛宕山」をはじめ、里山ハイキングコースの山々が一望できる。さらに歩くと左右に下る交差点がある。左に下ると工業団地方面で、右だと先ほど上がった急な階段の根元に通じる。直進し東屋を過ぎるとベンチの並ぶ広場に着く。

F4 雑木林が続く快適な土の遊歩道を進むと、東屋があり途中山下公園に下る階段がある。道なりに雑木林の稜線を進むと突如アスファルト舗装となる。海軍火薬庫時代の名残の境界杭を見ることができ。ほどなく、目の前に船岡平和観音が小さく見え、雇用促進住宅裏の駐車場に出る。ここを下れば、出発点のしばたの郷土館に戻ることができる。交差点を過ぎ山道に入る。この地帯は土が掘り起こされた跡やケモノ臭の残る道が続く。イノシシが多く出没している場所だ。イノシシは夜行性と思われるが、日中も行動するので、歩く際は注意が必要だ。展望のない道を進むと、10数本の樅の木群に出会う。船岡城址公園の樅の木より太くて背丈があり立派だ。

F5 さらに進むと廃墟化している個人の寺の門前に着く。門前を右に下れば、しばたの郷土館に戻ることができる。屋敷沿いに進み狭い山道を登ると直ぐに船岡城址公園のエリアに出る。杉林の右側を歩き抜けると開けた梅林に出、スロープカーの軌道が見えてくる。右の道を下ればテニスコート上部の道に通じる。左側の梅林の斜面を登ると一番南の桜の木に着く。振り返ると山下公園から歩いてきた道を一望できる。さらに一段高い高台を目指し、つづら坂を登る。角田や丸森方面の眺望が素晴らしい。高台の広場は整備され、町民の

手でガーデニングされている。季節の花々を楽しむことができそうだ。里山ガーデンハウスを経て目の前の船岡平和観音を目指す。平和観音からは、船岡市街地や西船迫団地、白石川や遠くは太平洋までの大パノラマが広がる。最東端の深山から最西端の上野山までの里山ハイキングコースの山々全てを眺めることができる。観音裏側に行けば大河原町市街地を前景にした蔵王の眺望が抜群である。夜景を楽しむのであれば、ここが一番。

F6 山頂からスロープカー乗り場へ向かう。スロープカー乗り場へ行く手前で道を右に横切ると、原田甲斐と柴田外記の供養等が並ぶ「二の丸跡」に出る。

F7 スロープカー乗り場の下を通り、八重桜が多い場所を過ぎると急な舗装道に出る。ここから一気に旧勤労青少年ホーム前の駐車場まで坂道を下る。駐車場からは観光物産交流館「さくらの里」が見える。

F8 駐車場をさくらの里に向かうと花見の名所である三ノ丸に出るが、駐車場を横切って「樅の木」を目指す。雑木林の広い道の正面に樅の木を見ながら歩くと5分程で山本周五郎の小説「樅の木は残った」の題名のヒントになった「樅の木」に着く。白石川堤の一目千本桜、蔵王、太陽の村方面の眺めがよい。眺望をより楽しめるように、展望デッキが整備されている。

F9 展望デッキから下に見えたつづら坂を下り「千桜橋（せんおうきょう）」を渡ると白石川堤の一目千本桜に着く。「千桜橋」からの眺めは、蔵王、一目千本桜、白石川そして東北本線を走る電車が一望でき絶好のビューポイントである。「千桜橋」の西側には、「桜の小路」や親水公園が整備されているので時間があれば散策も良いだろう。

F10 一目千本桜を見ながら白石川堤を東へ下り、さくら歩道橋の交差点を右に折れ船岡駅を目指す。船岡駅の自由通路から駅前大通りに出て七十七銀行船岡支店の交差点を直進し、二つ目の交差点を右折する。細い道の突き当りに「白鳥神社（しらとりじんじや）」が見える。大河原町金ヶ瀬の大高山神社の分霊を勧請したもので、以前は四保山頂に鎮座していたが、その後村社となり明治12年に現在地に柴田外記神社を合祀して社殿が建立された。

F11 神社脇の細い道を歩くと「しばたの郷土館」に着く。



山崎山公園から船岡城址公園の樅の木と雁戸山を望む



船岡城址公園西側駐車場上部に咲くカタクリの群生



通年を通して参拝者が絶えない白鳥神社